海の日サポートプログラム実績　いわき市

１　事業目的

　いわき市小名浜地区は、東日本大震災の津波被害に加え、原発事故の影響による風評等により、市最大の観光スポットのアクアマリンパークの観光客は、震災前の約75％の172万人程度の水準で推移している状況にある。

　このため、海の日を中心として当市の特徴である海に関する様々なパラレルイベントを小名浜港で展開し、たくさんの方に海に親しんでいただき、また「海の安全性、楽しさ、豊かさ、安らぎ」等を感じていただきながら、私たちが海から享受しているものを再認識する機会を設けた。

２　事業名

　いわき花火大会、おなはま海遊祭「into the iwaki sea again」

～海を学び 海と親しむ～

３　事業主体

1. 主　催　いわき花火大会実行委員会
2. 後　援　いわき市、いわき市教育委員会
3. 協　力　福島海上保安部、国土交通省東北地方整備局小名浜港湾事務所

　　　　福島県小名浜港湾建設事務所、㈱イワキ潜建

　　　　公益財団法人マリンスポーツ財団、アクアマリン三社協議会

　　　　マリスクラブいわき、いわき海星高等学校

４　事業内容

（1）時　期　2015年7月25日～26日

（2）場　所　いわき市小名浜　アクアマリンパーク

（3）対象者　特に子供と子供を持つ市民等　約1万人

(4) 内　容

①親子防災教室

　　　 「遊び」を通じて海の楽しさの理解促進と併せ、震災を踏まえた防災対策の重要性について学んだ。

②海洋少年団の活性化（25日のみ）

　　　　　　　　団員が減少傾向の海洋少年団は、団員の確保に結びつくよう団員による模擬カッターレース等を実施した。

③小名浜港の役割り等に関する学習会

　　　　　　　　　いわき市教育委員会の協力を得て、子供等を対象に国・県の担当者により海の教室を開催し小名浜港の歴史や役割を説明し、重要港であることの理解を促進した。

　　 ④移動水族館（25日のみ）

　　　アクアマリンふくしま及び葛西臨海水族園の移動水族館により児童等　に直接魚等に触れたり、見学等を行った。

⑤お魚タッチ水族館及び子ども工作教室の開催（26日のみ）

園児や小学生等を対象にお魚タッチ水族館、解体ショーや貝殻工作　　　　教室等を開催し、海に関する興味の醸成を図った。

　⑥その他既存イベント

　　　津波や原発事故による子供たちの海への恐怖心や健康不安を払 　　　　拭し、遊びを通じて、海の楽しさ、安全性を理解してもらうため、キッズボートや水上バイク等の体験イベントを実施した。

　　※　賛同を得た４学校等には送迎バスを手配（利用者123名）

５　受益者数

　イベント参加者数　おなはま海遊祭：約10,000人（乗船体験1,696人）

６　効果等

　震災前当市では、９ヶ所の海水浴場を開設、海を全面に観光誘客を図って参りましたが、風評等により、現在では2ヶ所の開設にとどまり、平成22年の海水浴客約79万人に対し、平成26年は約3％の2万6千人と子供を持つ世代を中心に海離れが顕著となっており、今年は約5万9千人と昨年の2倍の入込客数となったところではあるが、依然として風評等が続いているところである。